

令和 6 年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立大竹高等学校	校長	應本 哲夫	生徒指導主事	木村 公一
取組事例名	『文化祭における自主性・協調性・創造性の育成』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
○生徒会執行部、文化委員会を中心に生徒が自主的に活動する行事にする。 ○自己の役割を果たし、互いの協力関係を強める経験を通じて、より良い集団の形成をめざす。 ○部活動・学習活動の成果発表、クラス企画（展示、アトラクション、食品バザー）など、多彩かつ創造的、総合的な教育活動にする。	○集団の中で、自ら考え行動し、他者と協働できる生徒の育成。 ○目標を設定し、その実現に向けた活動に挑戦できる生徒の育成。 ○積極的に他者と関わり、貢献意欲を持って行動できる生徒の育成。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
【9月】 ① 若竹祭テーマ募集 ② 文化委員会（第1回～第3回まで実施） クラスフラッグ制作、クラス企画、予算について 有志ステージ発表募集、企画宣伝ポスターについて 【10月】 ③ バザー食券販売 ④ クラスフラッグ完成 ⑤ ステージリハーサル 【11月1日（金）前日祭】 午後：開会式、部活動発表（吹奏楽部・ダンス部） クラスフラッグ優秀賞発表 【11月5日（火）若竹祭】 1・2学年 クラス企画 アトラクション 3学年 食品バザー 文化部、授業選択者による展示（書道・美術）	生徒にめあてをもたせるために ○本校生徒の文化系活動の成果を発表する機会とするため、今年度は2日間開催で2日目は保護者だけでなく、一般公開とした。 生徒の意欲を高めるために ○意欲を高めるために、3学年のみ食品バザーを実施し、メニューを各クラス2品と拡大させた。 ○体育館ステージをメインとして発表することで、発表側と観客側双方の意欲向上に期待した。 生徒の頑張りを認め、価値付けるために ○文化祭の翌日以降に、文化祭の成果と課題のアンケートを実施し、今後の学校生活のあり方について生徒全員で確認した。



3 成果と課題

成果としては、文化祭終了後のアンケートで、文化祭を楽しむことができた肯定的回答が、90%であった。生徒会が中心となり企画運営を行うことができた。今年度初めて、クラスフラッグを作成することで、多くの生徒に役割を与え行動することができた。一方で、一部の生徒には協働で準備・運営・片付けが難しく感じている生徒、やりたい事ができなくて非協力的な行動をする生徒がいた。望ましい集団形成につながる工夫やよりよい達成感のある取組を検討することが課題である。